# 季報 Quarterly Report

二松学舎大学附属図書館

P2　韓国語を学ぶ・教える　塩田今日子

P3　外国語を学ぶ・教える　西川　雅子

P4　音を聴き込み比較を楽しむ　永井　鉄郎

P5　楽しかったゼミナール　菅原　淳子　／　記憶に残る図書館のこと　渡邊　了好　／　大学図書館に望むこと　多田　一臣

P6～7 新入生にお薦めの本　塩沢　一平　／　押野　洋　／　小久保欣哉　／　髙橋　佑太

P8　アメリカ図書館事情報告（2）　ヒューストン編　山崎　和正

P9　「漢学の里　諸橋轍次記念館」を訪ねて

P10　OPAC の時短検索術

P11　役立つ機器がたくさん！ プレゼンテーションルーム

P12　本学教職員著書紹介



No.104

2019（平成 31）年 3 月

# 韓国語を学ぶ・教える

文学部国文学科　教授　塩田今日子

最近の学生は韓国語が本当に上手になった。子供のころから親と一緒に韓国ドラマを楽しみ、K-POPアイドルの歌を聞き、ネットで韓国の番組を見る学生も多い。このように生きた言葉に接する(慣れる)機会を多く持つことは外国語を習う上で何よりも大切なことである。

私が韓国語を専攻していたころは、生の韓国語に接することができる機会は非常に限られており、韓国のラジオ放送を受信しようとしても雑音だらけで聞き取るのがとても大変だった。だから今の環境は羨ましい限りである。

韓国語は語順が日本語と似ていて、共通の漢字由来の単語もたくさんあるので、日本人にとっては学びやすいと言われる言語である。しかしそれだからこそ、安易に日本語の直訳をしてしまいがちで、本当にマスターするのは簡単ではない。私も大学で一年間、教科書と辞書を使って単語や文法を覚えても、なかなか「わかった」気がしなかった。韓国語を「日本語に訳す」ことはできても、韓国語自体の意味を「感じる」ことができなかったのである。

あるとき、戦前に英語を習ったのに流暢な英語を話されるご老人に出会った。不思議に思い勉強方法を尋ねてみると、なんと小説を丸暗記しただけだとおっしゃる。それで私も授業でやっていた「三年峠(삼년 고개)」という昔話を丸暗記してみることにした。面白く、長さも適当で、登場人物も多彩なので、いろいろな表現が覚えられそうだと思ったからである。

すると驚いたことに、それから韓国語の意味がなんとなく「感じられる」ようになってきた。これは一体どうしたことだろう？実は、外国語を習う上で「言語の全体像を把握すること」はとても重要である。昔話という一つの完結したストーリーを丸暗記したことで、私にも韓国語の全体像がおぼろげながら見えてきたというわけだ。

言語はジグソーパズルに例えることができる。パズルに描かれた絵は言語の全体像で、単語や文法要素はピースである。ピースに何が描かれているのか（単語の意味、文法の用法）を正しく理解するためには、それが絵（言語全体）の中のどの位置にあるかを知らなければならない。そのためには、さまざまな文脈の中でそれらが使われている文例にたくさん接し、その意味を感じ取る必要がある。

辞書を引いて単語を日本語に訳してしまうほうがずっと簡単そうに見えるが、それは韓国語という絵のジグソーパズルの一つのピースの空間に、日本語という絵のジグソーパズルのそれと似かよった位置にあるピース（日本語訳）を無理やり押し込んでしまうことに他ならない。それらのピースは形が違う（表す意味が完全には一致しない）ので、当然うまくはならないばかりか、他のピースもはまらなくなる。単語の意味を「日本語訳」で覚えることは、他の単語の意味を理解する妨げにもなり、かえって韓国語全体の習得を難しくしてしまうのだ。逆に言えば、たったひとつの単語でも意味を本当に正しく理解する（正しい形のピースをはめる）ことができれば、他の単語も断然覚えやすくなる（他のピースもはまりやすくなる）のである。（部分と全体は密接に結びついているので、どんな小さな部分でも、とことん究極までつきつめれば、それは全体の理解につながるのである。）

だから、韓国語を本当にマスターしたいなら、ぜひ一つ一つの単語を、細部にまでこだわって感じ取ってほしい。授業でドラマの映像などを見ながらシナリオを学ぶことをメインに据えているのは、場面設定が明確で、セリフの抑揚などからもその意味を感じ取りやすいからである。また、韓国語は話し手と聞き手の関係や年齢によって言葉遣いが変わるので、誰が誰に対してどういう状況で使うのかわかることも重要である。

ドラマなどにたくさん接してきた学生たちはそういう意味でとてもいいセンスの持ち主である。ただ残念なことに発音などおいてやや正確さに欠ける点が見受けられる。その点を克服し、細かいところまでこだわる感性の豊かさがあれば、自動翻訳全盛の時代においても間違いなく役立つ、真の語学力を身につけることができるはずである。

# 外国語を学ぶ・教える

国際政治経済学部国際政治経済学科　特別任用准教授　西川　雅子
(Masako Nishikawa-Van Eester)

中学高校と英語を学んで来たが、特に出来がいい生徒というわけでもなく、ぼんやり受験英語のようなものを少し勉強して大学生になった。それから思うところあって英語の教員免許を取るべく、心機一転、英語をきちんと学ぶことを決めた。ダブルスクーリングというのか、昼は英文科の大学生、夜は週５日制の英語の専門学校生となった（４年制）。後者の先生はほぼ全員がアメリカ人で、日本語が使えない環境だった。週末や空いた時間はアルバイトで英語を教えた。拙い英語ながらも、アメリカ人旅行者相手にアテンド通訳もした。経験を積み重ね、英語の運用能力を高めていった。

勉強する上で気を付けたこと。日々の予復習を大切にする。授業に集中し、先生の説明は一言も聞き漏らさない。単語や熟語、文は、必ず発音記号を見て発音しながら綴りを憶える（当時はまだ紙の辞書で発音記号を確認するしかなかった）。これができるようになれと言われれば何をおいてもできるようになり、これはやってはいけませんということは次からは間違えないようにした。…当たり前のことばかりである。その後機会を得てアメリカに留学させてもらったが、特にコミュニケーションで大きく躓くようなことは最初からなかった。常に「いつだって本番！」という心持ちで日本で練習していたのが、現実の滞米生活にうまく反映できたのだろう。

アメリカ留学後、ベルギーで家庭を持ち、また幾つかの言語を学んだが、まずは英語に不自由しない、というのがどれだけ役に立ったかわからない。一つことばがわかるようになるたび、次のことばを習うのが楽になるような気がする。

夫の転勤で欧州から移り住んだ東京で困惑したのは、主婦には外国語を使う機会がないことだった。では機会を作ろうと、在宅での翻訳を始めた。次第にお客さんが付き、ご指名・ご紹介で仕事が増えた。興味のあることを一生懸命勉強したらそれが仕事になり、しかもとても感謝される、というのは、驚きとともに喜びとなった。社会で誰かの役に立っているという実感が持てた。

子育てが一段落してから、大学院に四半世紀ぶりに入り直し、大学教員になった。

外国語学習は、好奇心と「どこまでも諦めないしつこさ」を持ち、「それを使って何がしたいか」の目標があれば、うまく行くように思う。学生の皆さんには興味のあることから英語の世界に入ってもらえれば、と思う。そして実体験の中からそれぞれの「驚きと喜び」を見つけてもらいたいと願う。

現在の私は、教壇に立つと同時に、夫の興した事業の関係で、日欧の企業間交渉や共同プロジェクトの会議・研修・講演・取材・国際展示会での公式通訳などを務めている。会議や広報の資料に関連文書、ポスター等々を翻訳する場合もある。また、フリーランスで、自身が興味を抱いた企画に参加し、さまざまな場所で、多種多様な分野で活躍する人々と出会い、通訳やプロジェクトチームの調整役を務めたりもしている。そのため大学の休業期間中は海外出張もある。このように、教育活動を最優先にしながらも、これからも、できるだけ実社会に直に関わっていきたいと考えている。そこには国籍も人種も関係ない。ただ共通の目的を持ち、掲げた目標に向かって共に一生懸命働く人々がいるだけだ。そこに自分も参加できることが、とても嬉しくありがたく、また非常に楽しい。

大学生の皆さんに、現場での緊張感や充実感、楽しさ、仕事の達成感を伝えること、「英語ができるとこんなにおもしろい体験ができるんだよ！」と話すこと、ができるのは、英語教師としての私の大きな強みのように思う。円滑なコミュニケーションには文法の力だって必要だ。それが理解できたとき、なぜ私がうるさく文法の説明をするのかも多少はわかってもらえるように思う（だからといって、勿論文法だけで英語が使えるようになるわけでもないが）。自身の体験から得たものを、情熱をもって教室で伝え、可能な限り学生の皆さんに還元していきたい。

国際展示会（IT 関連）でベルギー王国フランダース政府パビリオンにて通訳（日英蘭語）を務める。どちらも東京ビッグサイト。

# 音を聴き込み比較を楽しむ

文学部中国文学科　特任准教授　永井　鉄郎

きっかけは覚えていないが、幼い時から外国語に興味があった。小学５年生で自ら NHK のテレビ英会話を見始め、また姉が好きな『セサミストリート』を一緒に見ているうちに英語らしくない単語が耳に入り、後にそれがスペイン語だと知ると中学１年生からテレビ・ラジオ講座でスペイン語を学び始めた。さらに高校１年の時、何気なくテレビ中国語講座を見始め、当時鄧小平氏が来日したのを機に将来重要な言語になることを確信した。

その頃購入した本に『中国語のすすめ』（鐘ヶ江信光著・講談社現代新書）と『20 カ国語ペラペラ』（種田輝豊著・実日新書）がある。前者からは、中国語学習における「音」の重要さ（目で理解する誘惑に負けず、とにかく正しい発音を練習すること）、及び語学学習は「暗記・根気・年期」の三つの「き」に支えられている、という至言を頂いた。後者からは、あらゆるチャンスを語学学習に活かすこと、また特に発音は重要であり、この筆者はある外国語の模範となる録音を数百回聴き込んで練習したので話すときには脳裡にそれが浮かぶほどだ…という経験談を得ることができた。ちなみにこれらの著書はようやくカセットテープが出回り始めた時代の話なのだが、音声媒体が溢れている現代の大学生は果たして語学教材の音声を「聴き込む」作業はしているのだろうか。

その後、中国語を学ぶことを目的にわたしは二松学舎大学に入学した。昭和 56 年当時は我が校には現在と違い「専攻中国語コース」という、１年次から週に４～５時限中国語科目を履修できるシステムがあった。高校時代から独学だったわたしの発音は徹底的に矯正され、文字通り「音」の重要性を思い知ったが、運良く当時市販の中国語教材テープの録音を多く担当されていた北京放送の方明アナウンサーが来日し、NHK テレビ中国語講座のゲストになった。その低音の響きと発音の美しさに魅了されたわたしは、方明氏の発音を毎日のように聴いて模倣したので、未だに中国語を話すときはその音声が頭の中に蘇るほどである。こういう学習が実ったためか、大学４年次のとき開催された朝日新聞社主催「中国語コンクール」の朗読部門で全国１位を頂いた。

一方、語学学習には「音」は勿論語彙や文法も重要である。大学２年次に野村邦近先生の授業で中国近現代文学（朱自清・魯迅など）の講読があり、受講者が様々な日本語訳をしてくる中で「君の翻訳が最も小説らしい」とお褒めの言葉を頂いてから、わたしの興味は日本語に傾いた。その頃から中国語の文法で難解なことに遭遇すると、日本語に類似現象はないか、と考えるようになった。教員として今学生たちに聞くと大抵「補語が難しい」という。しかしわたしは、例えば結果補語や方向補語は日本語の複合動詞を連想すれば理解しやすいと思っている。“看完”は「見＋終わる」、“回来”は「帰って＋来る」という日本語に極めて似ているし、また方向補語の派生義は日本語複合動詞の後項で方向を表す語の意味が抽象化する現象（「焼き＋あがる」の「あがる」は上昇でなく完成を表すなど）を想起すればさして難解なことではない。英語にも “up” が上昇でなく完了・終結を表す例がある（“drink up”「飲み干す」など）。この他、日中対照言語学の知識については大学院時代に『日本語と中国語の対照研究論文集』（くろしお出版）から多くを吸収することができた。

目を他言語に転ずれば、中国語で「できる」の意味を持つ“会”“能”の区別はスペイン語 “saber” “poder” を始めロマンス語系諸語に同じ物があり、わたし自身は学習上難しいとは思わなかった。一見難解に見えることでも、日本語を内省すればヒントはいくらでもあり、その他広く言語間の類似・相違について考えることは実は楽しみでもある。

# 楽しかったゼミナール

学長　国際政治経済学部国際政治経済学科　教授　菅原　淳子

新たに設置される国際政治経済学部の教員として、私が二松学舎大学に着任したのは平成 4 年。当初は平成 3 年に開設された同学部の 1 期生が、3 年になった時点で履修する「西洋政治史」を担当することになっていた。ところが設置の中心的な役割を果たして来られた本橋渥先生が開設直前に急逝され、ご担当予定だった 2 年次必修科目「国際関係入門」も急遽私が担当することになった。大学設置審議会の審査も 2 科目で受け、完成年度までは「西洋政治史」と「国際関係論」の 2 つのゼミを担当することになった。

文部省に提出する新設のための申請書類に押印したのが平成元年だったことを考えると、平成 31 年 3 月で退職する私にとり、まさに平成は本学に奉職した時代と言える。

本学での教育の中で、最も楽しかったのは 3、4 年のゼミナールだった。「民族問題から国際関係を考える」というテーマのゼミには、世界の諸地域のナショナリズム・民族問題や地域紛争に関心を持つ学生が集まった。大教室での講義とは異なり、10 人前後の学生とアットホームな中でゼミを進めることができた。学生には多くの知識をつけてしっかり考え、自分の意見をきちんと言えるように鍛えたつもりである。普段おとなしい学生がテーマによっては積極的に意見を言う、3 年次には発言の少なかったゼミが 4 年になると活発な議論をする。学生のそんな成長を見ることは、教員としてとても楽しく嬉しいことだった。毎年作成してきた学生の卒業論文集は、今では私のかけがえのない宝である。

# 記憶に残る図書館のこと

文学部国文学科　教授　渡邊　了好

図書館の思い出を二つ書こうと思う。

一つは、大学入学早々の土曜の午後の図書館の思い出である。窓の外に武蔵野の名残が色濃く残る林が見えて物音一つせず修道院のようだった。一生こんな静かな所で過ごせたらどんなに幸せだろうと思った。

二つ目は激動の時代に図書館に命を守られた思い出である。1970 年代、私は韓国の延世大学にいた。朴正熙政権の末期で、国中で毎日のように激しいデモが行われていたが、機動隊は大学の門外にいて学生が市内に出ようとするのを阻止するだけであった。ところがその日の機動隊は学内に入りデモ隊に催涙弾を撃ちながら学生を検挙し始めた。デモは粉砕され機動隊は、門から本部まで大学構内を縦断する数百メートルの大通りを進み始めた。周辺にいた学生達は無差別に捕まっていた。私は催涙ガスで涙を流しながら大学院の教室がある奥の建物に逃げようとしていた。近くにいた学生が「そっちはダメだ、図書館だ」と教えてくれた。彼について私も大通りの左側の図書館に逃げた。図書館のドアが内側から閉まる直前に彼も私も滑り込んだ。機動隊は図書館には入らなかった。死者こそ出なかったが、重傷者、検挙者が多数出た一日であった。その後どんどん大学は修道院のようでなくなって行き、大統領が暗殺され戒厳令が敷かれ、延世大学の卒業式は中止になった。40 数年前のことである。

# 大学図書館に望むこと

文学部国文学科　特別招聘教授　多田　一臣

五年ほどの在職期間では、思い出といえるほどのものもない。その代わりに、大学図書館に望むことを、二点ほど書かせてもらうことにする。

①二松学舎の図書館はまだそうなってはいないが、完全閉架自動式書庫は、大学とりわけ文学部を主体とする大学図書館にはふさわしくない。完全閉架自動式書庫は、書物の大きさのみを基準に本を書庫にどんどん詰め込んでいく。必要に応じて、機械が自動的に書物を選び出す。それゆえ、まず合理化ありきのしくみであって、およそ研究目的の図書館にはなじまない。開架式であるなら、目的の本を探しながら、その左右に並ぶもっと重要な書物に気づくことがある。完全閉架自動式書庫は、そうした本探しの目を失わせる。この採用だけは絶対に避けてほしい。

②図書の配列のいわゆる十進分類法とやらの愚劣さにも気づいてほしい。900 番台が文学だそうだが、200 番台の歴史となぜあんなに離れているのか。その場合の文学も、どうやら作家の書く作品を前提としているらしい。その配列が文学研究と結びつかないのは、あまりにも明らかである。歴史との関係でいえば、人文系の書物はすべて近接させて配置すべきである。それが研究目的の図書館のありようだろう。都立中央図書館は、番号は十進分類法に拠ってはいるが、その配置は人文系でまとめている。これはこれで一つの見識だろう。とはいえ、大学のような研究目的の図書館は、十進分類法のような分類法でなく、独自な分類法を採用すべきである。

以上が大学図書館に望むことになる。

# 新入生にお薦めの本

（価格はすべて税込、2019年2月現在）

## 文学部国文学科　教授 塩沢一平

### ①『うたう天皇』

著　者：中西　進
発行所：白水社　2011 年　2,160 円

毎年正月には、宮中歌会始があり、天皇皇后両陛下を始め、様々な人々が歌を詠みます。和歌を 4500 首余り収める『万葉集』も雄略天皇の歌から始まっています。センター試験でも和歌がある文章が頻出で、しかも必ず設問にもなっています。これはもしかしたら、歴代の天皇が歌を詠み続けてきたからかもしれません。この本は、なぜ天皇を中心として、日本の人々が歌を詠んできたか、その秘密を解き明かしてくれます。

### ②『万葉語誌』（筑摩選書）

編　者：多田一臣
発行所：筑摩書房　2014 年　2,160 円

古代語辞典です。辞典というと、そのことばには、例えば３つ位の意味があって、その例文と訳が付く感じでしょう。しかしこの本は、古代語が抱える世界観を理解する本です。例えば「人」には色々な意味がありますが、本来は「茫漠とした存在で対になるものによって意味が確定します」。ですから、神との対では、人間。我との対では他人というようになります。古代の成果を理解するのに、うってつけの本です。

### ③『説話と横笛 － 平安京の管絃と楽人』

著　者：磯　水絵
発行所：勉誠出版　2016 年　3,024 円

歴代の天皇を中心として人々は歌を詠むだけではなく、古代から楽器も奏でてきました。中世説話は、横笛にまつわる話の宝庫でもあります。この本は例えば、天皇の御前だけ上手く吹けない名手が、好きな場所で好きなように吹くと、最上の音色を出す話があります。好きこそものの上手なれを地で行くような、こんな話だけでなく、横笛にまつわる、楽しめる話のアンソロジーが、満喫できる本です。

## 国際政治経済学部国際政治経済学科　教授 押野　洋

### ①『クール・ジャパン!? 外国人が見たニッポン』（講談社現代新書）

著　者：鴻上尚史　発行所：講談社　2015 年　820 円

グローバル化のプラス面の一つは、日本人の考え方や日本の文物が日本に居ながらにして相対化されるという知的な楽しみを享受できることです。日本人と外国人のコミュニケーションや「世間」と「社会」の違いにまで言及されています。この本を読めば皆さんの物の見方・考え方がより広く深くなるのではないでしょうか。

### ②『どくとるマンボウ青春記』（新潮文庫）

著　者：北　杜夫
発行所：新潮社　2000 年　594 円

青春記の類は学生時代に読んでほしい（というかこの時期にしか読めない）ですね。この本は、大学時代に読んで「面白かった」という印象が強烈に残っている一冊です。描かれているのは昭和初期の青春ですが、平成の次の時代の学生の目にはどのように映るのでしょうか、知りたいところです。同じく昭和のハチャメチャな青春記として、小松左京『やぶれかぶれ青春記・大阪万博奮闘記』（新潮文庫）も推薦しておきます。

### ③『学校が教えないほんとうの政治の話』（ちくまプリマー新書）

著　者：斎藤美奈子　発行所：筑摩書房　2016 年　885 円

選挙権年齢が 18 歳に引き下げられましたが、政治にはあまり興味はないという学生が大半なのではないでしょうか。でも皆さんが生きている限り政治と無縁な生はありえません。シルバー民主主義が台頭する中、政治に関心のない学生にこそ一読してもらいたい本です。

## 国際政治経済学部国際経営学科　准教授 小久保欣哉

### ①『自助論』(知的生き方文庫)

著　者：サミュエル・スマイルズ／竹内均 訳
発行所：三笠書房　2002 年　575 円

「天は自ら助くるものを助く」から始まる本書は、人生は自分の手でしか切り拓くことが出来ないという、自助独立を基本とする啓発書です。原著は 1859 年 7 月に出版され 150 年以上前から世界数十か国で読まれ続けてきました。学部学科を問わず、新しい生活が始まる新入生の皆さんに是非手に取って頂きたい 1 冊です。

### ②『ざっくりわかる企業経営のしくみ』

著　者：遠藤　功
発行所：日本経済新聞出版社　2014 年　928 円

経営コンサルタントとして、長年実際に企業経営について経験してきた筆者による経営学の入門書です。入門書ではありますが、実企業の事例をもとに企業経営の本質を説明する内容になっています。企業経営の基本である戦略、マーケティング、組織、財務、オペレーションについての理論もわかりやすく解説がなされています。これから経営学の講義を受講するにあたり、理解を助ける副読本として推薦します。

### ③『戦略プロフェッショナル ー シェア逆転の企業変革ドラマ』(日経ビジネス人文庫)

著　者：三枝　匡　発行所：日本経済新聞出版社　2002 年　700 円

30 歳代で業績不振の企業を立て直した経験を持つ筆者が、実体験に基づいて書いた経営戦略小説です。企業経営の現場で起こっていることは泥臭く、一筋縄ではいきません。しかし、自らが関与し、企業を成長させていくことは経営実務の醍醐味と言えます。本書はそれを面白い読み物として描写し、多くの経営者やビジネスマンにも読まれています。手にとると一気に読めてしまう内容です。

## 文学部中国文学科　専任講師 髙橋佑太

### ①『雍正帝　中国の独裁君主』(中公文庫)

著　者：宮崎市定
発行所：中央公論社　1996 年　741 円

戦後を代表する東洋史学者の宮崎市定の代表作、『科挙　中国の試験地獄』については既に紹介されていますが(季報№ 95 参照)、本書もお薦めの一冊です。中国最後の王朝、清の第五代皇帝、雍正帝がどのようにして皇帝になったのか、その絶対的な独裁君主ぶりが描かれています。宮崎市定の文章は読みやすいので、読み物としても充分、楽しめます。

### ②『富豪への道と美術コレクション－維新後の事業家・文化人の軌跡』

(ゆまに学芸選書 ULULA)　著　者：志村和次郎　発行所：ゆまに書房　2011 年　1,944 円

私たちは普段、美術館で名品を鑑賞していますが、そもそも美術館はどのように作られてきたのでしょうか。明治維新による武家社会の崩壊は、古美術品の流失や伝統文化の没落を招きました。そうした美術品の海外流出を食い止めたのは、旧来の財閥関係者や新興実業家の人々でした。著名な私立美術館のコレクションがいかに形成されたのか、また彼らが単なる収集家ではなく、共通する哲学を持っていたこともうかがえます。

### ③『書を志す人へ』Ⅰ・Ⅱ

著　者：今井凌雪
発行所：二玄社　1979 年

最後に専門領域に関するものを一冊。書写は美しい文字を書くことを目的としますが、書・書道・書法となると、求められるものは、それだけではありません。本書はどのように書を学んでいくべきか、現代書道における問題点など、書を志す者が考えるべき問題を提起しています。習字ではなく、「書道」を志す学生へ是非とも読んでもらいたい一冊です。絶版となっているため、神保町の古本屋などで探してみてください。

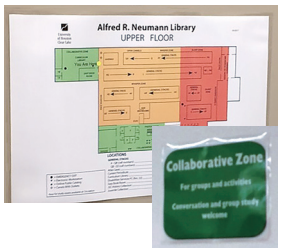
# アメリカ図書館事情報告(2) ヒューストン編

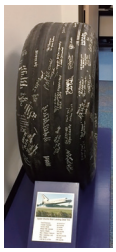
図書館員
山崎和正

前号では、アメリカニューオリンズの図書館事情について掲載しましたが、今号はヒューストンにおける図書館の最新事情を紹介します。

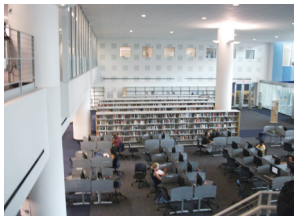
## ■ヒューストン大学クリアレイク校（Alfred R.Neumann Library）

2007 年度から、図書館職員の革新的な取り組みを奨励する助成制度が設けられた。その一例として、館内でセラピー犬と触れ合うことでストレスを解消するイベントが催されており、入口の犬の絵（上部写真右）は PR のために作成されたもの。地域的特徴としてヒスパニック系のコミュニティが多いため、「Whisper Zone」等の掲示物は、文字が読めなくても一目で分かるように色分けして作成されている。また、館内にある「UHCL Archives」では、大学史関連資料の他、JSC（Jonson Space Center）から移管された NASA の宇宙飛行に関する資料も管理されている。



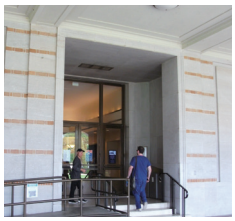


## ■ローンスターカレッジ（LSC-CyFair Library）



地域の住民に安く高等教育を提供する公立の 2 年制大学であるが、90％の学生が 4 年制大学に編入している。大学図書館と公共図書館が一体化したジョイント・ライブラリーという運営体制が特徴で、開館して 15 年目を迎える。予算は基本的に施設面を大学側、人件費などの運用面を公共側が負担し、図書購入費については大学と公共とで別々であるが配架は混配になっている。メリットとして、大学予算では購入が難しいアニメ等を公共予算で購入でき、蔵書の多様化を図ることができている。

## ■ライス大学（Fondren Library）



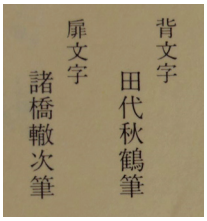
100 以上のアメリカ西部の研究図書館・大学図書館で構成されている分散型の冊子体雑誌遡及保存事業 WEST（Western Regional Storage Trust）の参加館である。最初は雑誌の提供のみであったが、6 年目となる現在はアーカイブビルダーとして収集にも力を入れている。しかし、州の予算で購入した資料を他州に引き渡すことの是非等課題もある。大学から車で 5 分ほど離れたところには 150 万冊規模の保存書庫があり、重複や利用頻度の低い資料を保管している。書架の 8 ～ 9 割がすでに埋まっており、現在同規模のものを 2 棟隣接地に増設することを検討していた。

## ■ Houston Public Library（Central Library）

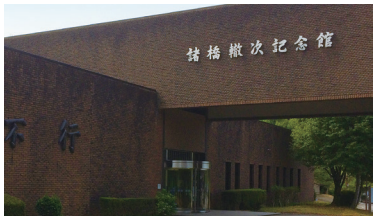
「One Houston, one library」という戦略のもと、現在抱えている市内の図書館サービスにおける格差解消を目指している。具体的には地域を 7 つに分け、各地域全てに現在中央図書館のみ提供しているフルサービス（tax help や computer classes 等 15 項目）を拡充し、”Express library”( 予約本のピックアップや子供向けプログラムの実施 ) をモールや空港へ配置する計画などが盛り込まれている。「Linking you to the world」というミッションから命名された施設である「Tech Link」には、デジタルスキャナー、3D プリンター、刺繍機といった機器やミュージックスタジオ、ビデオスタジオなどのデジタル環境が整っており、基本 2 時間まで全て無料で利用できる。

# 「漢学の里　諸橋轍次記念館」を訪ねて

「333」。これは、1,200 館余りある CiNii※に加盟している大学図書館や研究機関のうち、『大漢和辞典』( 大修館書店，1955.11-1960.5) を所蔵している館の数です。修訂版や縮写版を加えれば、その数は 1,000 館を越え、図書館になくてはならない本のひとつと言えます。二松学舎の学生なら、中国文学を専攻している学生ではなくても、一度は目にしたことがあるはず。ちなみに、『大漢和辞典』の背文字を揮毫した田代秋鶴は、本学の卒業生です。




『大漢和辞典』を編纂した諸橋轍次氏は明治 16 年 6 月 4 日、新潟県下田村（現・三条市）に出生し、14 歳までこの地で過ごしました。その郷里である三条市の景勝地・八木ヶ鼻の岩壁を臨む地に「漢学の里　諸橋轍次記念館」が平成 4 年に建てられました。



館内には、諸橋氏より寄贈された「諸橋文庫」を中心とした図書室、及び諸橋氏の生涯や業績を紹介する常設展示室や企画展示コーナーがあります。

また、敷地内の庭園には、諸橋氏の生家が旧来の姿のまま移築されており、市の指定文化財になっています。

他にも、園内にある遠人村舎は新宿区西落合の諸橋氏の自邸に昭和 12 年頃建てられた茶室で、そこで『大漢和辞典』の編纂作業がおこなわれ、建物は平成 8 年に生家の隣に移築・復元されました。「遠人村舎」の名前は、陶淵明の詩「園田の居に帰る五首・其の一」の詩句「曖曖（あいあい）たり遠人の村」に由来し、人から遠ざかって編纂に専念するという意味が込められています。外壁にスギ皮を張り、内部造作に吟味された丸太材を使うなど、漢学者の書斎に相応しく趣ある意匠となっているこの建物は、国の登録有形文化財に指定されています。

『大漢和辞典』についてもっと知りたい方は、以下の図書がお薦めです。全て図書館に所蔵していますので、是非一読してみてください。

- 漢文のすゝめ　諸橋『大漢和』編纂秘話
- 『大漢和辞典』を読む
- 大漢和辞典と我が九十年
- 諸橋轍次博士の生涯

**諸橋轍次 (1883 ～ 1982)『大漢和辞典』年表**

| | |
|---|---|
| 大正 14 年 | 大修館書店から編纂を依頼される |
| 昭和 18 年 | 『大漢和辞典』巻 1 を刊行 |
| 昭和 19 年 | 編纂の功により、朝日文化賞を受賞 |
| 昭和 20 年 | 戦災で巻 1 の紙型以外消失 |
| 昭和 30 年 | 『大漢和辞典』巻 1 を刊行（再刊）<br>編纂の功により、紫綬褒章を受賞 |
| 昭和 35 年 | 『大漢和辞典』全 13 巻の刊行が完了 |
| 昭和 40 年 | 文化勲章を受章 |
| 昭和 41 年 | 縮写版を刊行（昭和 43 年完了） |
| 昭和 59 年 | 修訂版を刊行（昭和 61 年完了） |

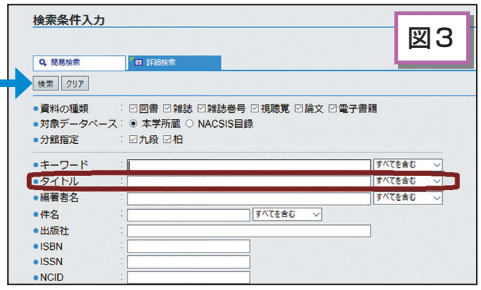
※ CiNii…NII 学術情報ナビゲータ［サイニイ］は、論文、図書・雑誌や博士論文などの学術情報で検索できるデータベース・サービス。

# OPAC の時短検索術

**○特定の資料が決まっていない場合**

例えば、中国語の文法についての資料を探すとします。図書館 HP のトップページにある検索窓（図 1）の赤枠に「中国語□文法」（□はスペース）と入力してみます。すると、検索結果の画面（図 2）になります。画面左側に「絞込検索」という欄がありますね。そこの赤枠の部分に「資料種別」とあり、図書や論文などが何件ヒットしたかがわかります。

（図 2）では「絞込検索」が途中で切れていますが、実際には「資料種別」のほかに「著者」、「件名・キーワード」、「出版年」、「出版社」、「言語」、「所蔵館」、「所在」、「貸出区分」とあり、計 9 つの区分で絞り込むことができるようになっています。絞り込みの例を挙げると、




・雑誌ではなく、本を見てみよう　→　「資料種別」を「図書」に
・まだ中国語を習い始めたばかり　→　「言語」を「日本語」に
・今すぐに見たい　→　所蔵館を（九段図書館にいれば）「九段」に

というように、ご自分の都合に合わせた絞り込みができます。このように、たくさんヒットした場合には絞り込みをして気になる資料を検索しましょう。

**○特定の資料が決まっている場合**

例えば、三宅登之著『中級中国語読みとく文法』（白水社、2012 年）という資料を見たいとします。先ほどと同じ方法で（図 1）の赤枠に「中国語□文法」と入力して検索しても、初めの検索結果では見つかりません。絞り込もうとしても著者の欄に「三宅登之」が、出版社の欄に「白水社」がありません。絞り込みにも限界があることがわかりますね。ただ出版年の欄に「2012」があるので、そこから見つけることはできます。見たい資料がはっきりわかっている場合には、素直にそのタイトルを入れてしまうほうが良いことがわかります。

でも、長いタイトルを全部入れるのはちょっと面倒、またはタイトルがうろ覚えの時もあるでしょう。そんな時に便利なのが***一致検索***です。「/」を使って検索します。具体的には、

前方一致検索…「/ 中国語文法」と入力　→　「中国語文法」から始まるタイトルの本がヒット
後方一致検索…「中国語文法 /」と入力　→　「中国語文法」で終わるタイトルの本がヒット
完全一致検索…「/ 中国語文法 /」と入力　→　「中国語文法」というタイトルの本のみがヒット

となります。こちらの一致検索は、（図 1）の赤枠に入力して検索すると、一致検索のものから優先してヒットしますが、他の資料もヒットします。完全に一致した検索をするには、（図 1）の青枠の「本学所蔵詳細検索」をクリック→（図 3）の検索画面になりますので、赤枠で囲んだ「タイトル」のところで実行します。

**○もっと資料を見たい場合**

（図 1）の赤枠に入力して資料を検索すると、最初の設定では本学所蔵の資料がヒットされます。しかし、もっと他の資料を探したい場合どうすればよいでしょうか。（図 1）の赤枠に入力した後で、

図 1 緑枠の「他大学所蔵」をクリックして検索　→　「CiNii Books」からの所蔵検索
図 1 黄枠の「国立国会図書館」をクリックして検索　→　「国立国会図書館」からの所蔵検索
図 1 桃色枠の「国内論文」をクリックして検索　→　「CiNii Articles」からの論文検索
図 1 水色枠の「国内リポジトリ」をクリックして検索　→　「JAIRO」からの論文検索

ができます。こちらを活用すれば、本学に所蔵のない図書や雑誌、論文などを探すことができます。

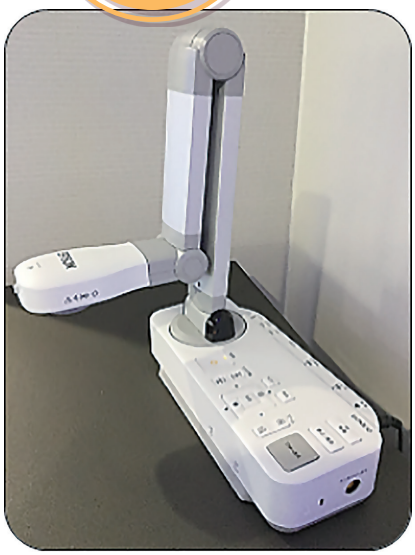
もしわからないことがあれば、遠慮なくカウンターにお尋ねください。

役立つ機器がたくさん！

# プレゼンテーションルーム

## 特集 書画カメラ

書画カメラとは、長い首の先にカメラがついていて、手元の資料や立体物をスクリーンに投影できるカメラです。実物を直接スクリーンに映しながら説明をすることができるので、相手にイメージが伝わりやすく、より効果的にプレゼンテーションを行なうことができます。

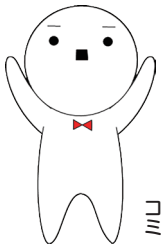


### 便利な機能

- **準備が簡単**：書画カメラ本体とプロジェクターを専用コードで接続すれば、あとは専用のリモコンで操作　難しい設定なし
- **明るさ調整**：LED ランプが点灯し、明るさ調節が自在に
- **自動フォーカス**：フォーカスボタンで自動ピント調節　ぶれずにスクリーン投映
- **映像回転**：カメラヘッドのダイヤルを回すと 180 度まで回転
- **拡大縮小**：拡大は 16 倍まで可能　被写体が小さい場合は、カメラの支柱を縮め、被写体から 10 センチまでレンズの位置調整が可能

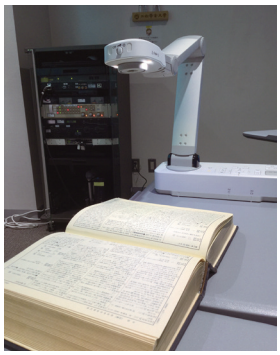
### こんなことも!

- 投影した画像や動画をメディアに保存
- スクリーンを分割して映像を表示
- 映像にコメントを書き込んだり、スライドショーで表示

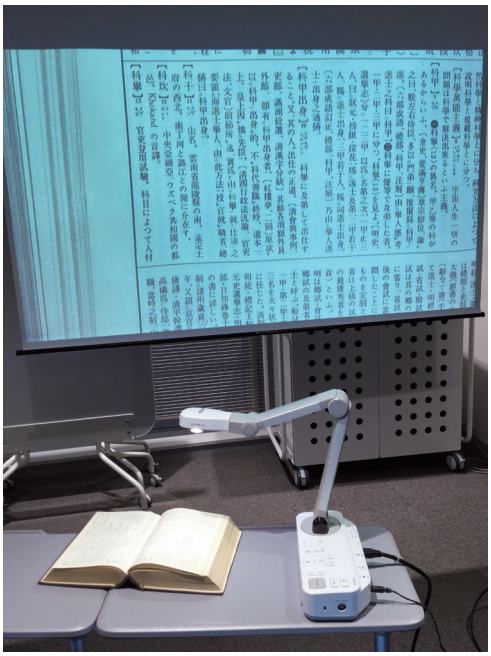



### 活用してみよう！

言葉や紙資料だけでは伝わりにくい内容を、リアルタイムに映しだし、資料を拡大表示することで、細かいニュアンスもより明確に伝わります。実物投影ということで参加者の興味をひくこともでき、短時間で大人数と情報を共有することができます。また、書画カメラ本体にマウスを繋げば、スクリーンに投影した画面にコメントを書き込むこともできます。



活用例として、書道の法帖を拡大し筆使いを確認したり、楽器の運指や地図や模型を置いて作業手順を映像で流したりするなど、様々な場面で利用できます。アイディア次第で多くの活用方法がある機器です。



『大漢和辞典』を拡大表示

ラーニング・コモンズ2階のプレゼンテーションルームには、様々な機器が揃っています。使いこなせば、より説得力のあるプレゼンテーションになること間違いなし！わかりやすい写真や図入りの機器マニュアルも完備していますので、初めての方でもスムーズに操作できます。ぜひお気軽にご利用ください！

**プレゼンテーションルームご利用のお申し込みは、ラーニング・コモンズ1階受付までお越しください。**

# 本学教職員著書紹介

## 『「関帝文献」の研究』

伊藤晋太郎 著
（汲古書院　2018 年 9 月 15 日発行）
A5 版　316 頁　9,000 円＋税
ISBN : 978-4-7629-6618-7

横浜中華街の中心に関帝廟という建物があります。そこには中華圏の人たちに厚く信仰されている関帝という神が祀られています。この関帝とは、三国志の武将の一人として知られる関羽が神格化された姿です。本書は、関羽／関帝をテーマとした日本初の学術専門書です。

神となった関羽に対する信仰が高まっていくのは、関羽が没して 900 年くらい経ってからですが、さらに時代が進むと、関羽／関帝の百科全書ともいうべき文献が続々と出版されるようになります。私はこれらの文献を「関帝文献」と呼んでいます。「関帝文献」には、関帝の伝記や伝説、関帝の肖像、関帝が書いたとされる手紙、関帝や関帝廟に関する後世の人の詩や文、関帝の生涯を絵解きで示した「関帝聖蹟図」などが載っています。

本書はこれら「関帝文献」を研究対象としたものです。具体的には、数多く出版された「関帝文献」は全体としてどのような特徴や性格を持つのか、個々の「関帝文献」にはそれぞれどのような特色があるのか、「関帝文献」はいかなる目的で編纂・出版されたのか、「関帝文献」は関帝信仰の中でどのように位置づけられるのか、などを解明することに挑んでいます。

研究の結果、一口に「関帝文献」といっても、関帝信仰に対して冷静な態度で編纂されたものと、関帝に対する熱烈な信仰心をもって編纂されたものとに大別できることが分かりました。そして、全体としては儒教を奉じる中国の知識人の価値観が強く反映されており、「関帝文献」は儒教の神としての関帝を宣揚するためのツールと位置づけられます。本書ではこれらのことを色々な切り口から論じています。

関帝信仰は、中国の歴史・思想・宗教・民俗・文学など多くの分野と密接に関わります。したがって、関帝信仰を研究することは、中国の文化、ひいては中国・中国人を知ることに直結します。本書をひもといてくれた学生の中から、関帝信仰の研究を志す人が出て来てくれることを願ってやみません。

尚、本書は学校法人二松学舎の学術図書刊行費助成を受けて出版されたものです。ここに記して感謝申し上げます。

文学部中国文学科　教授　伊藤晋太郎

---

### 編集後記

「季報」104 号をお届けします。

ご執筆いただきました諸先生にまず厚く御礼申し上げます。

今号は、異国シリーズ続編として、異国研究に必要な外国語の学び方などについて 3 名の先生にご寄稿いただきました。ぜひ参考にしてください。

退職される先生からの一言、新入生へお薦めの本の紹介など、盛りだくさんの内容となっております。ぜひご一読ください。（S・A）

二松学舎大学附属図書館
季　報
第 104 号
発行日　平成 31（2019）年 3 月 20 日
発　行　二松学舎大学附属図書館
九段図書館　〒 102-8336　東京都千代田区三番町 6-16
電話：03-3263-6364
柏図書館　〒 277-8585　千葉県柏市大井 2590
電話：04-7191-8758
印刷所　株式会社 サンセイ
電話：03-5227-8333